

南斗北斗

〔下學集〕天地南斗北斗斗字從南北而音異也

〔運歩色葉集〕保北斗

〔撮壤集〕天象北斗七星 貪狼星 巨門星 祿存星 文曲星 廉貞星 破軍星 武曲星

〔和爾雅〕天文北斗又云珠斗北斗有七星一魁五六七爲杓

〔物類稱呼〕天地北斗ほくと星なり 東國にて七曜のほしと稱す、又四三の星ともいふ、

〔續日本紀〕光仁寶龜元年、是年六七月慧星入於北斗、

〔台記〕天養二年元久安十月十六日戊子齋戒八月分自十四日至今日三奉拜北斗七八九月分

〔萬寶鄙事記〕占天氣北斗 雲北斗をおほふは大雨、黒雲さえぎりて北斗見えざるは三日のうち

雨黒雲のあつく北斗をおほふはその夜雨、黄雲ほくとをおほふは明る日あめふる、白氣北斗を

おほふは三日の内に雨、青氣北斗をおほふは五日のうちに雨ふる、天に雲なくして、北斗の上

下に雲あるは、五日のうちに大雨、日入て後白光有て地中より北斗につきのぼり、其間の星に

ひかりなきは、其夜かならず大風、黒雲斗口をおほふは風雨、北斗の魁星の間、黒氣うるほひ

有て、其ほとりに雲あればその夜雨、北斗の前に黄氣あるは明日風ふく、もしうるほひおほふ

たる氣あるは、夜中か明日か大雨、夜るは北斗を見て明日の天氣をえるべし、北斗の上下五色

の雲氣あるは、その一日の内に雨ふる、一日にてはやみがたし、雲氣北斗をおほひて、黄白色なる

は風ふく、赤色は旱、青きは大雨、黒きは風、北斗の間あかき雲氣おほふは、明る日大熱、白氣有て

北斗の杓の間をさえぎりおほふは、三日のうちに大風惡雨、北斗の上下黄氣ありて、うるほひ

魚龍のかたちの如く、或はうるこのごとくあるは、其日かその夜か大雨、

〔三代實錄〕清和貞觀十六年二月廿七日丁巳、是夜文昌星微而不明、

〔米庵墨談〕續篇文昌星 文昌星ノコト諸書ニミユ、異同甚多、イマ其一ニヲ摘録ス、餘餘叢考

文昌星